

業績回復・拡大局面から再構築へ

- 素形材・エネルギーセグメントは特別対策委員会を設置
- 産業機械セグメントは中計を前倒しして収益を拡大 -

2011年5月20日

株式会社日本製鋼所

代表取締役社長 佐藤 育男

ご注意

- ・ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

はじめに

3月11日に発生した東日本大震災により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。
また、被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

目次

P4	事業部門の構成と製品	P19	第2部 2012年3月期の業績予想
P5	中計期間中の売上高推移	P20	(1) 2012年3月期の業績予想
P6	中計期間中の営業利益・当期純利益推移	P21	(2) セグメント別売上高・営業利益の状況
P7	第1部 2011年3月期決算	P22	(3) セグメント別受注高の状況
P8	(1) 決算概要	P23	(4) 営業利益変動要因分析
P9	(2) 営業利益変動要因分析	P24	おわりに
P10	(3) セグメント別売上高・営業利益の状況	P26	参考資料
P11	(4) 素形材・エネルギーセグメントの業績:売上高		
P12	(5) 産業機械セグメントの業績:売上高		
P13	(6) セグメント別受注高の状況		
P14	(7) 素形材・エネルギーセグメントの業績:受注高		
P15	(8) 産業機械セグメントの業績:受注高		
P16	(9) セグメント別受注残高の状況		
P17	(10) 財務体質の状況		
P18	(11) 設備投資・減価償却費の推移		

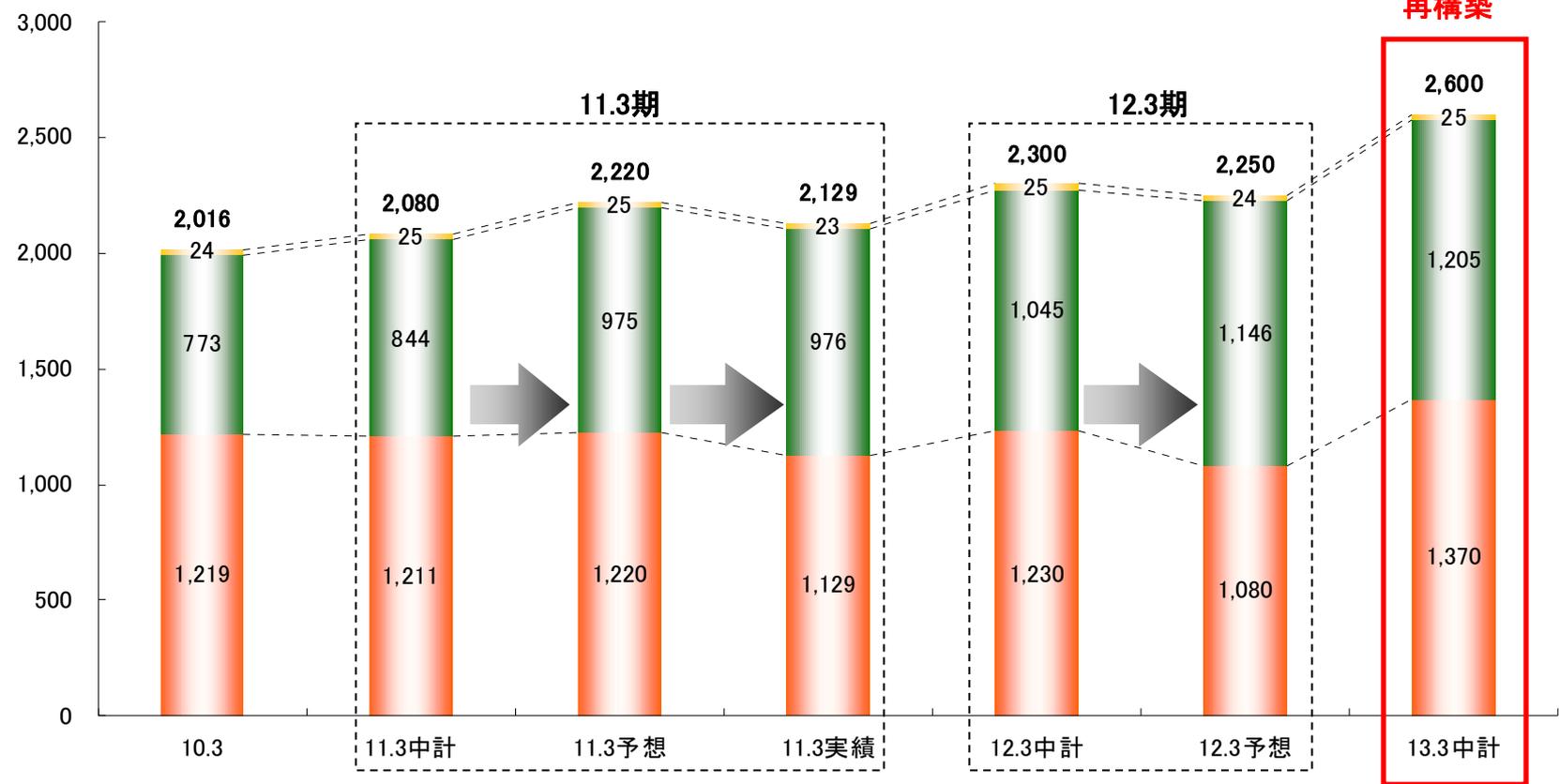
事業部門の構成と製品

事業セグメント	素形材・エネルギーセグメント		産業機械セグメント		不動産 その他事業					
製品事業部	鉄鋼事業部		産業機械事業部	特機本部						
生産拠点	室蘭製作所 		広島製作所  横浜製作所 							
製品	<p>【鍛造鋼製品】 ○電力・原子力</p>  <p>○その他 ・製鉄用鉄鋼ロール ・金型用鋼</p> <p>【鋼板・鉄構製品】 ○石油精製用圧力容器</p>  <p>○クラッド鋼板・鋼管</p>  <p>【風力発電機器】</p> 		<p>【樹脂機械】 ○樹脂製造・加工機械</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造粒機 ・フィルムシート装置 ・二軸混練押出機 (TEX)  <p>○成形機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック射出成形機 ・中空成形機  <p>【その他機械】 ○軽合金射出成形機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マグネシウム合金射出成形機 ・アルミダイカスト機  <p>○防衛関連機器</p> <p>○圧縮機</p> <p>○鉄道製品</p> <p>○IT関連機器 (レーザーアニール装置等)</p> 		○社有地 有効活用					
市場	電力・鉄鋼		石油・天然ガス	自然エネルギー	石油化学	産業機械	自動車	IT	防衛	不動産賃貸

中計期間中の売上高推移

(単位: 億円)

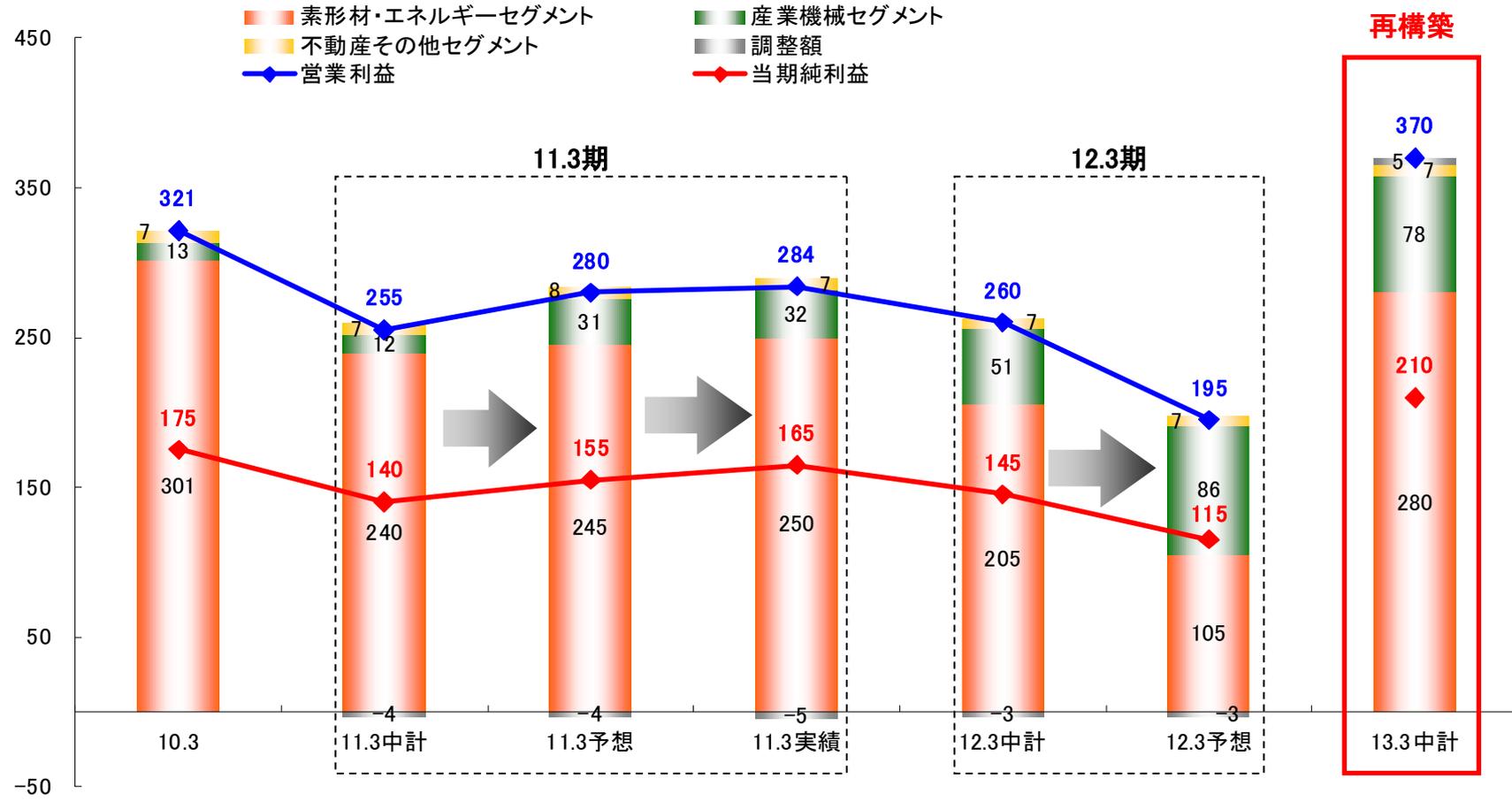
■ 素形材・エネルギーセグメント ■ 産業機械セグメント ■ 不動産その他セグメント



再構築

中計期間中の営業利益・当期純利益推移

(単位: 億円)



- ・ 素形材・エネルギーは、震災の影響を最小限に留め、増益に向けた戦略の再構築が課題
- ・ 産業機械は、12.3期は中計最終年度計画値を上回る予想

第1部 2011年3月期 決算

中計の初年度として

素形材・エネルギーセグメント：設備増強による生産量増大・効率化

12.3期、13.3期を見据えた受注活動強化

産業機械セグメント：原価低減活動による収益力強化

成長市場での受注活動強化

を推進してきた。

本年3月11日に発生した大震災及び福島第一原子力発電所における事故を受け出荷延期等の影響はあるも、収益は中間予想(2010年11月)の上方修正値を上回る。

(1) 決算概要

※本IR資料の前回予想とは、2010年11月時点での予想数値を指します。

(単位:億円)

	10.3期 (A)	11.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (B)	実績 (C)		
売上高	2,016	2,220	2,129	113	△ 91
営業利益 (率)	321 16.0%	280 12.6%	284 13.4%	△ 37	4
経常利益	312	280	291	△ 21	11
純利益	175	155	165	△ 10	10
1株当たり 純利益(円)	47.22	41.76	44.54	△ 2.68	2.78
1株当たり 配当金(円)	12.0	12.0	12.0	0.0	0.0

11.3期通期

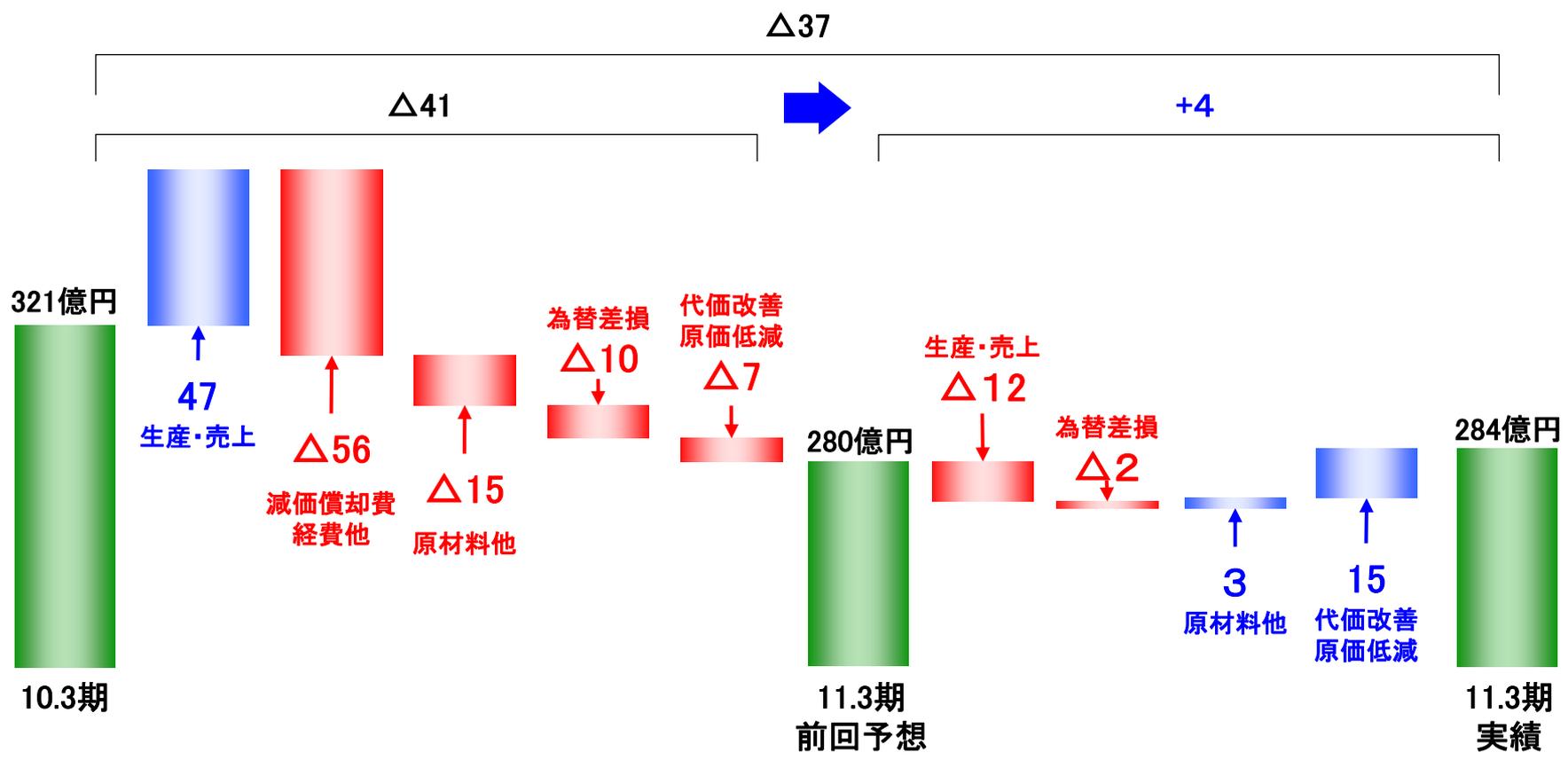
【前回予想比】

- ・売上高は、素形材・エネルギーで震災による出荷延期が発生し、91億円下回った。
- ・営業利益は概ね前回予想通りとなった。

【前期比】

- ・売上高は、素形材・エネルギーは前期比減少したものの、産業機械の伸長により、113億円上回った。
- ・営業利益は、産業機械は受注・売上増により伸長したものの、素形材・エネルギーにおける減価償却負担の増加が重く、前期を下回った。

(2) 営業利益変動要因分析



(3) セグメント別売上高・営業利益の状況

(単位:億円)

		10.3期 (A)	11.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
			前回予想 (B)	実績 (C)		
素形材・エネルギー	売上高	1,219	1,220	1,129	△ 90	△ 91
	営業利益	301	245	250	△ 51	5
	率	24.7%	20.1%	22.2%		
産業機械	売上高	773	975	976	203	1
	営業利益	13	31	32	19	1
	率	1.7%	3.2%	3.3%		

素形材・エネルギー

【前回予想比】

- ・ 売上高は、主にクラッド鋼管の出荷延期により前回予想を下回った。
- ・ 営業利益は、売上減少があったものの、原材料費が想定を下回った他、原価低減により計画通りとなった。

【前期比】

- ・ 売上高は、風力発電機器の売上減少により、90億円減少。
- ・ 営業利益は、設備投資に伴う減価償却費の増加により、前期を下回った。

産業機械

【前回予想比】

- ・ 売上高・営業利益共に、前回予想通りとなった。

【前期比】

- ・ 売上高は、樹脂製造・加工機械、成形機が大幅に伸長した。
- ・ 営業利益は、樹脂製造・加工機械、成形機の売上増加と、代価・コストの改善により大幅に増加した。

(4) 素形材・エネルギーセグメントの業績：売上高

(単位：億円)

	10.3期 (A)	11.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (B)	実績 (C)		
電力・原子力	458	440	433	△ 25	△ 7
石油精製用圧力容器	250	283	284	34	1
クラッド鋼板・鋼管	182	200	147	△ 35	△ 53
風力発電機器	188	110	90	△ 98	△ 20
その他	70	112	102	32	△ 10
連結会社他	71	75	73	2	△ 2
合計売上高	1,219	1,220	1,129	△ 90	△ 91

(5) 産業機械セグメントの業績:売上高

(単位:億円)

	10.3期 (A)	11.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (B)	実績 (C)		
樹脂製造・加工機械	222	280	265	43	△ 15
成形機	167	340	320	153	△ 20
その他	255	240	232	△ 23	△ 8
連結会社他	129	115	159	30	44
合計売上高	773	975	976	203	1

(6) セグメント別受注高の状況

(単位:億円)

	10.3期 (A)	11.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (B)	実績 (C)		
素形材・エネルギー	1,233	1,059	988	△ 245	△ 71
産業機械	841	1,085	1,157	316	72
不動産その他	24	25	23	△ 1	△ 2
合計受注高	2,098	2,169	2,168	70	△ 1

素形材・エネルギーセグメントが軟調に推移したものの、産業機械セグメントが好調に推移したため、前期比70億円増加し、概ね前回予想どおりとなった。

素形材・エネルギー

【前回予想比】

- ・天然ガス輸送用クラッド鋼管の受注が予想を大きく上回ったものの、風力発電機器にキャンセルが発生した他、電力・原子力製品が米国における発注の遅れ等により減少した。

【前期比】

- ・風力発電機器は、制度変更に伴う市場停滞によりキャンセルが発生した。

産業機械

【前回予想比】

- ・樹脂製造・加工機械のフィルムシート装置、その他機械の高精細液晶パネル製造関連装置が増加し、予想を上回った。

【前期比】

- ・市場の回復に伴い樹脂製造・加工機械及び成形機が増加したほか、高精細液晶パネル製造関連装置が大きく伸長した。

(7) 素形材・エネルギーセグメントの業績：受注高

(単位：億円)

	10.3期 (A)	11.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (B)	実績 (C)		
電力・原子力	585	587	528	△ 57	△ 59
石油精製用圧力容器	28	35	38	10	3
クラッド鋼板・鋼管	203	244	370	167	126
風力発電機器	272	35	△ 109	△ 381	△ 144
その他	60	80	105	45	25
連結会社他	85	78	56	△ 29	△ 22
合計受注高	1,233	1,059	988	△ 245	△ 71

(8) 産業機械セグメントの業績: 受注高

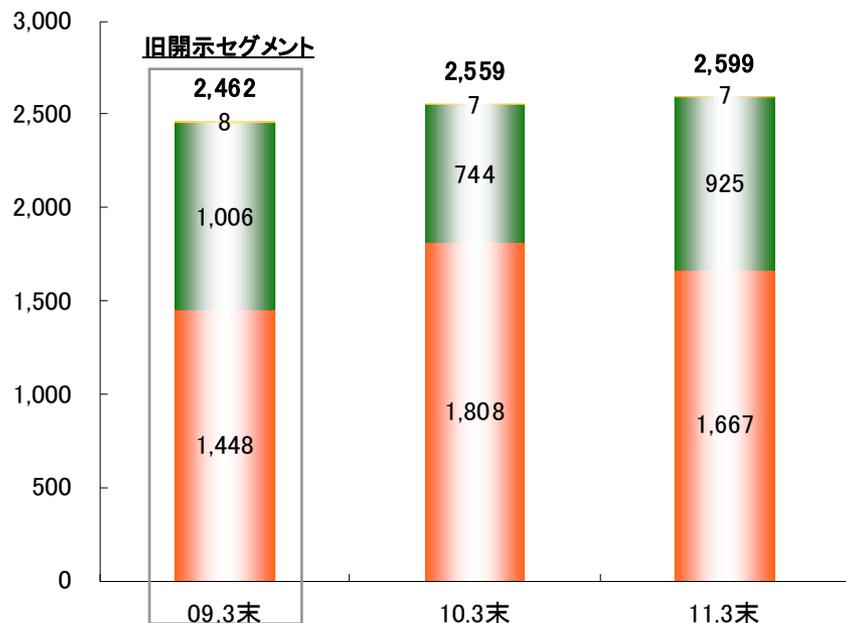
(単位: 億円)

	10.3期 (A)	11.3期		前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
		前回予想 (B)	実績 (C)		
樹脂製造・加工機械	283	326	336	53	10
成形機	186	350	351	165	1
その他	275	273	324	49	51
連結会社他	97	136	146	49	10
合計売上高	841	1,085	1,157	316	72

(9) セグメント別受注残高の状況

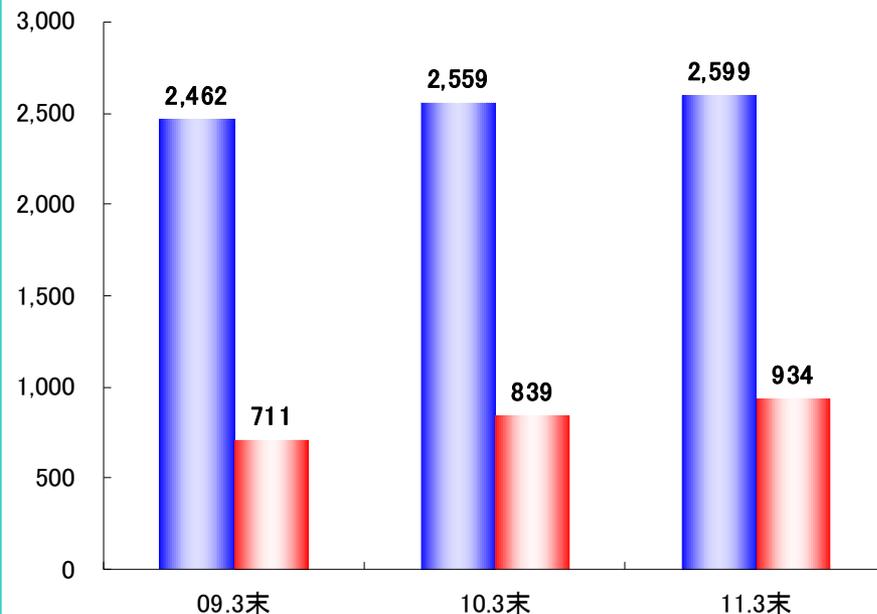
セグメント別受注残高の推移

(単位: 億円) ■ 素形材・エネルギー ■ 産業機械 ■ 不動産その他



全社に占める電力・原子力製品受注残の推移

(単位: 億円) ■ 全社 ■ 電力・原子力



【概況】

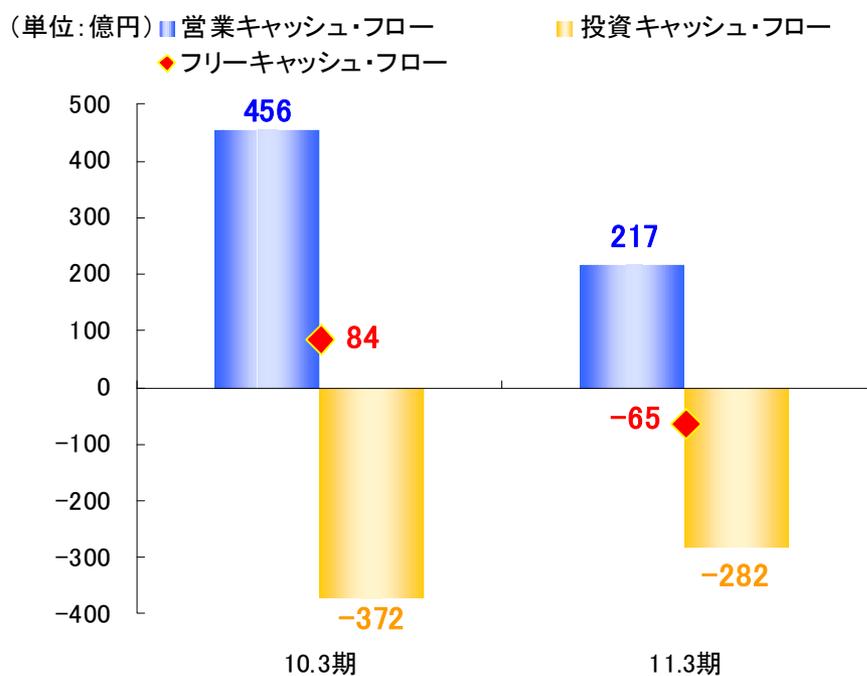
・ 素形材・エネルギーは、電力・原子力、クラッド鋼管の受注残高は増加したものの、石油精製用圧力容器、風力発電機器の受注残高が大幅に減少し、前期比141億円減少した。

一方、産業機械は樹脂製造・加工機械、成形機が増加した他、液晶パネル製造関連装置の増加により、前期比181億円の増加。

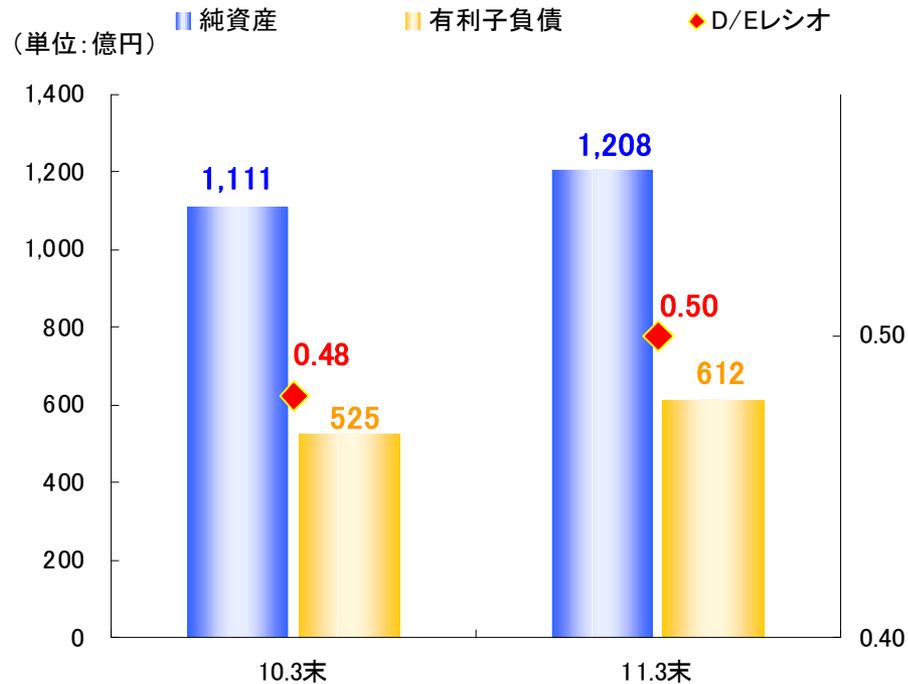
【電力・原子力製品】

・ 全社受注残高に占める電力・原子力の割合は36%に達した。

(10) 財務体質の状況



・ 11.3期通期のフリーキャッシュフローは、主に営業債権及び棚卸資産の増加により減少した。

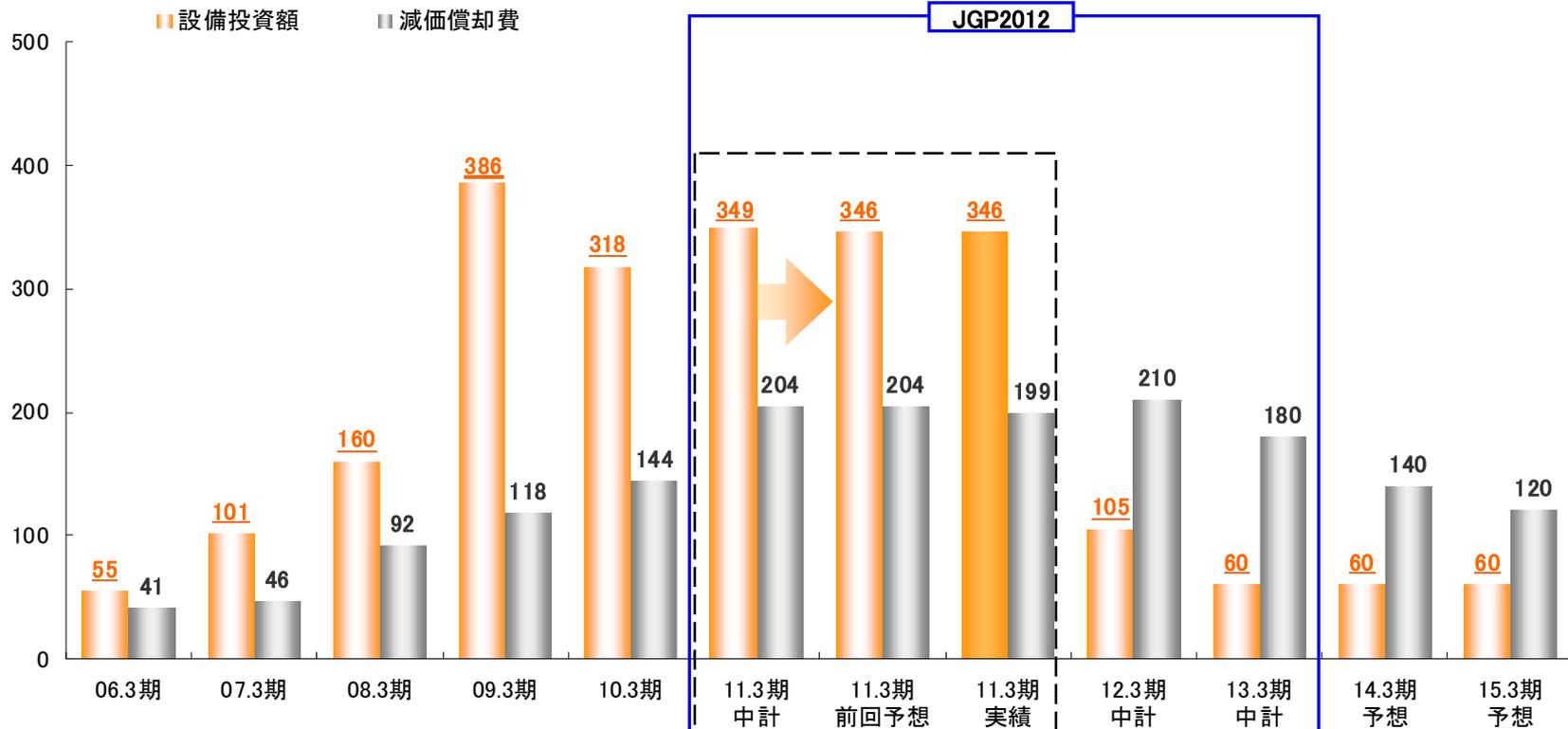


・ 高水準の設備投資及び仕掛の増加に対応するため、11.3期末の有利子負債は増加した。

(11) 設備投資・減価償却費の推移

設備投資と減価償却費の推移

(単位: 億円)



	06.3期	07.3期	08.3期	09.3期	10.3期	11.3期中計	11.3期前回予想	11.3期実績	12.3期中計	13.3期中計	14.3期予想	15.3期予想
設備投資額	55	101	160	386	318	349	346	346	105	60	60	60
減価償却費	41	46	92	118	144	204	204	199	210	180	140	120

第2部 2012年3月期の業績予想

- 世界の原子力政策の見直しという不透明な情勢の中で、今年度はマイナス影響を最小限にする。
- 併せて中期経営計画のローリングを行う。
(2013年3月期を初年度とする次期中期経営計画を策定)

(1) 2012年3月期の業績予想

(単位:億円)

	10.3期	11.3期 (A)	12.3期 中計 (B)	12.3期 予想 (C)	前期比 (C)-(A)	中計比 (C)-(B)
売上高	2,016	2,129	2,300	2,250	121	△ 50
営業利益	321	284	260	195	△ 89	△ 65
(率)	16.0%	13.4%	11.3%	8.7%		
経常利益	312	291	255	200	△ 91	△ 55
純利益	175	165	145	115	△ 50	△ 30
1株当たり 純利益(円)	47.22	44.54	39.03	30.98	△ 13.56	△ 8.05
1株当たり 配当金(円)	12.0	12.0	12.0	未定		

12.3期予想

- ・ 売上高は、素形材・エネルギーセグメントが石油精製用圧力容器、風力発電機器の減少により前期比減少するものの、樹脂製造・加工機械、成形機など産業機械セグメント主要製品が全般に伸長することから、前期比121億円増加する見通し。
- ・ 営業利益は、産業機械セグメントは売上・受注の拡大により前期比2.7倍となるが、素形材エネルギーセグメントにて石油精製用圧力容器の売上減少、電力・原子力製品の受注減少が見込まれることから、前期比89億円減少すると予想。

(2) セグメント別売上高・営業利益の状況

(単位:億円)

		10.3期	11.3期 (A)	12.3期 中計 (B)	12.3期 予想 (C)	前期比 (C)-(A)	中計比 (C)-(B)
素形材・ エネルギー	売上高	1,219	1,129	1,230	1,080	△ 49	△ 150
	営業利益	301	250	205	105	△ 145	△ 100
	率	24.7%	22.2%	16.7%	9.7%		
産業機械	売上高	773	976	1,045	1,146	170	101
	営業利益	13	32	51	86	54	35
	率	1.7%	3.3%	4.9%	7.5%		

素形材・エネルギー

- ・売上高は、クラッド鋼板・鋼管が11.3期における天然ガス輸送用鋼管の受注拡大と前期からの期ズレ案件により増加する。電力・原子力が増加するものの、風力発電機の導入の一時的な停滞により前期比49億円減の1,080億円と予想。
- ・営業利益は、石油精製用圧力容器の売上が大幅に減少する他、原子力発電所事故の影響を受けて電力・原子力の受注落ち込みによる操業の低下を織り込み前期比145億円減の105億円と予想。

産業機械

- ・売上高は、樹脂製造・加工機械、成形機が引き続き伸長するほか、液晶パネル製造用エキシマレーザーアニール装置が前期比大幅に増加し、その他の産業機械も全般に増加することから、前期比170億円増加すると予想。
- ・営業利益は、売上の大幅な増加により、前期比54億円増の86億円を予想。

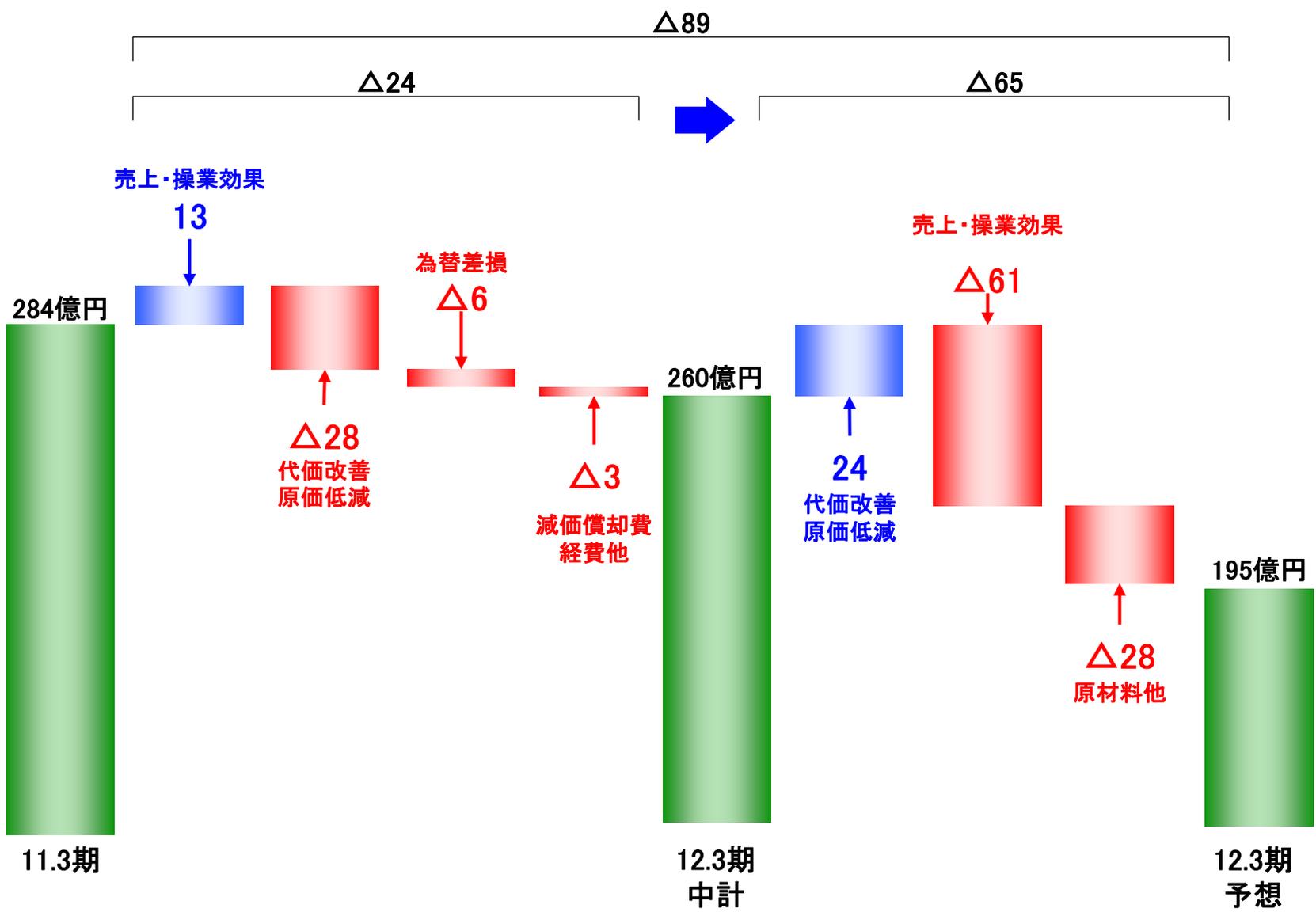
(3) セグメント別受注高の状況

(単位:億円)

	10.3期	11.3期 (A)	12.3期 中計 (B)	12.3期 予想 (C)	前期比 (C)-(A)	中計比 (C)-(B)
素形材・エネルギー	1,233	988	1,300	1,013	25	△ 287
産業機械	841	1,157	1,225	1,171	14	△ 54
不動産その他	24	23	25	24	1	△ 1
合計受注高	2,098	2,168	2,550	2,208	40	△ 342

- ・ 電力・原子力が減少する見通しであるものの、樹脂製造・加工機械、成形機が増加し、前期比40億円の増加を予想。

(4) 営業利益変動要因分析



変化する社会のニーズに応え、新たな成長軌道へ

- ◆ 12.3期は、原子力関連事業への影響を最小化すると共に、既存製品の受注拡大を推進
 - 【素形材・エネルギーセグメント】競争力強化、受注拡大活動を展開
 - 【産業機械セグメント】グループの持つ差別化技術を核に、市場シェア向上と新興市場攻略を実現

- ◆ 新たな企業価値向上策として、13.3期を初年度とする新中期経営計画を策定する

JSW 日本製鋼所

【参考】主要製品別売上高の推移

(単位:億円)

		10.3期	11.3期	12.3期予想
電力・原子力		458	433	522
石油精製用圧力容器		250	284	80
クラッド鋼板・鋼管		182	147	295
風力発電機器		188	90	38
その他		70	102	102
連結会社他		71	73	43
素形材・エネルギー 計		1,219	1,129	1,080
樹脂製造・加工機械	連結	222	265	327
	単体	202	247	301
成形機	連結	167	320	367
	単体	133	243	270
その他		255	232	324
連結会社他		129	159	128
産業機械 計		773	976	1,146
不動産その他 計		24	24	24
合計売上高		2,016	2,129	2,250

【参考】主要製品別受注高の推移

(単位:億円)

		10.3期	11.3期	12.3期予想
電力・原子力		585	528	411
石油精製用圧力容器		28	38	93
クラッド鋼板・鋼管		203	370	233
風力発電機器		272	△ 109	92
その他		60	105	141
連結会社他		85	56	43
素形材・エネルギー 計		1,233	988	1,013
樹脂製造・加工機械	連結	283	336	368
	単体	267	310	340
成形機	連結	186	351	386
	単体	155	273	287
その他		275	327	287
連結会社他		97	143	130
産業機械 計		841	1,157	1,171
不動産その他 計		24	23	24
合計受注高		2,098	2,168	2,208